

■第1部 質疑応答

質 問

丁先生：国際学部の丁貴連です。貴重なデータを見せていただきありがとうございました。三十年前からなかなか日光が変化してないということが言われており、近年になりやっと変化に動き出したように思います。しかし、三十年前と今の日光を考えると、なかなか変わっていません。そして今日（発表された）データを見たら変わっていない点が多かったので、もっと日光と奥日光に関しては、市民の意識も変えていかなければならないと思います。日光と軽井沢と比較がされますが、軽井沢はデータのにはどうでしょうか。

五木田さん：ありがとうございます。こちらのプロジェクトがまだ日本であまり行われておらず海外で始まったということを先ほどご紹介したのですが、すいませんが軽井沢についてはデータがないのでわからないので、今後軽井沢との比較も研究に取り組んでいけたらと思います。

丁先生：この質問をした理由は、いつも日光のイメージが軽井沢と比較されているイメージなのですが、少なくとも近代は日光と軽井沢と一緒に競い合いながらイメージを高めてきた事実があります。それが、近年軽井沢が日光を超えて日光はイメージダウンしています。日光のほうはるかに文化財や歴史や自然が豊かなのですが、どうも軽井沢に及ばないところはそこに住む人たちも私たちも日光についての勉強がまだまだ足りないのではないかと、反省の意を込めて質問させていただきました。

コメント（参加者A）

奥日光への関心は常にあり、ある意味世界との比較みたいな、その辺をもっと強く打ち出していったら嬉しいなと思っています。日本列島そのものが世界の生物多様性スポット 35 地域の一つ、という先端大都市のすぐそばに自然があるというのは 35 地域の中でもほぼないです。その中の奥日光ということになります。山岳自然権観光地というあり方について先進諸国ではもっとサステイナブルな自然に寄り添ってあるよう、なおかついろんな方が楽しめるようなそういう観光地が増えている中で日本だけは自然系観光地も、儲け主義みたいのところに入っています。これからあるべき姿として奥日光は世界の先端に向かって行くべきなのかなと感じているのですがよろしくお願いします。